

ベンチャーキャピタリストが、 投資先企業のリリーフ的CEOに。 投資家と企業の新しい関係の誕生



<http://www.afecto.net>

Kazutaka Muraguchi & Masanao Negishi

アフェクトコミュニケーションズ 代表取締役社長兼CEO
村口和孝 (42歳) **根岸賢直** (36歳)

●プロフィール 村口氏(左) / 1968年生まれ、慶応義塾大卒。卒業後、ジェフコムに入社。数々の経験を積み、1000億円規模の企業に転職。06年、日本初の個人投資家ファンドを立ち上げ、投資先企業に「日本テクノロジベンチャーパートナーズ」の代表取締役として、根岸氏(右) / 1974年生まれ、横浜国立大卒。卒業後、企業経営者として経験を積み、06年10月、同社に入社。現在CEOとして、創業メンバーを率いて、投資家と企業の新しい関係の誕生。



「投資先の改革へトップ乗り込む」と日経新聞紙上でならやらずに、独立して立ち上げられてしまった、独立系ベンチャーキャピタルNTV社長村口和孝氏。名前は確かに「アフェクトコミュニケーションズ」代表取締役CEO。VCとして投資し、社外取締役を務めていたV.B.アフェクトコミュニケーションズ(当時)はシンクスのCEOとして、前社長の藤田司氏に誘われる形で参加したのが昨年11月末。シンクスは、東坡のオフィスから大手町の広いオフィスに移ってデータセンター構想を具体化しようとしており、人員も増強していたのですが、ちょうどドットコム崩壊の別荘にぶつかり、事業計画の大転換を迫られていました。しかし、創業期である藤田氏はそれまでのしがらみもあってなかなか思い切った戦術を取りにくい。そうこうしているうちに経営の混乱が起き、身振り手振りを持った藤田氏からCEOへの就任を依頼されたのです。しかしほとんどアフェクトは降りませんでした。この3月末でまた以前の社外取締役に戻るつもりです。

と村口氏は事も無げに言います。VCが経営改革に乗り込むという記事がらもこの間米書との接触があるのでは? とか、まだ経営のきわみでは? といったところの本意はあつさりとおぼろげに伝わっていました。「確かに一時混乱はありましたが、もともとアフェクトコミュニケーションズが手がけているメールパブリッシャー(大企業向けメール配信用ソフトウェア)およびEコマースビジネスは大きなマーケットが期待できます。執行役員制を取り入れるなど組織改革を行って、余剰人員とスペースの削減を先行するだけで、充分立て直しの可能。あとは執行役員制を取り入れた結果出てきたみんなの意見を一つのコンセンサスにまとめ、新しい事業計画を作ること。財務的にそこ入れするだけでいいが、どちらもうまくいっています」昨年入社し、マーケティング分野のCOOを務める根岸氏も、「状況は劇的に改善しました。会社では技術には強いですが戦術部分が弱かったと思います。でもそれが露呈しないままでもいくつもり、早めに戦術を取っていただくことはなかったのではないのでしょうか」と語る。もう村口氏が社外取締役に戻っても指がながない体制が固まったという自信があるようだ。

村口氏は海外のVCとVBの差についても詳しく、「日本のVCは取締役会が強いですが、アメリカでは法的にVCが取締役会に対して強い権利を持つ。それだけ取締役会も体制を整えるわけですが、日本の場合、どうしても甘んが生まれがち。それは日本人の特性といえる。VCとVBの関係が築きにくいシステムが原因です」

みんなでこのシステムを変えたいというのが、村口氏の願いである。

アントレ情報

当社のメッセージングEコマースを活用してみませんか!

●提供内容 アフェクト コミュニケーションズでは、メールパブリッシャーとして、アプリケーションパッケージの提供、SIコンサルティング、アプリケーション・サービス・プロバイダの3つの事業を展開しています。メッセージングとEコマースを早期に実現できるサービスをビジネスに活用してみませんか。

問い合わせ先

アフェクトコミュニケーションズ 代表取締役
 マーケティング部
 ☎03-5201-1378
 E-mail:pr@afecto.net